

AUDIO BASIC

アクセサリで
こんなに変わる

CD-Rとディスクの
相性をチェックする

新デジタル時代対応

スーパートウィーター&
サブウーファーは
こう鳴らす

FM fan 別冊 2000 SPRING vol. 14
オーディオ・ベシック
定価1,000円

デジタルオーディオ最前線
価格帯別
コンポシステム提案
18



8 PART

ドルビー・ラボの「次の一手」を探る 「疲れ知らず」のヘッドフォンで 新たな音場創生を提案!

世界でいちばん有名なオーディオ人は誰だろう。マーク・レヴィンソン? ジェームス・パロー・ランシング (JBL)? 中道 (ナカミチ) さん?..... いや、ダントツで「ドルビー」のはずだ。

レイ・ドルビー博士の発明は、昔はスタジオ用録音機やカセットデッキのドルビー・ノイズリダクションが有名だが、ドルビー・ラボの仕事は、ドルビー・サラウンド、デジタルのAC3へと進化している。そのドルビーがヘッドフォンのための新しい音場創生を提案しているのが、ドルビー・ラボ日本支社に聴きに行った。

ヘッドフォンでアクション映画を2時間観ると耳が痛くなる。すでに各社から発売されている音場創生ヘッドフォンではヘッドヘッドに疲れる。パッチャルサラウンドのための信号処理のせいだ。ところがどうだ。ドルビーの肩をもつ訳ではないが、ドルビー・ヘッドフォンは疲れないのだった。理由は音響心理上明らかで、ドルビー・ヘッドフォンの場合は信号処理方



筆者あこがれの英語通いの伏木雅昭さん。「99年のオーディオエキスポのデモで、アンケートの回答は80%の人たちが欲しい」と答えてくれました!

法が従来方式とは違う。位相変化が少ない(音の引算をしていない)からナチュラルに聴けるのだ。オーストラリアのハイテク会社が基礎開発した技術をドルビー研究所が共同開発というスタンスで約2年かけてデジタル信号処理のアルゴリズムを開発するなど、練り上げてきた技術だ。

この効果はサラウンドに留まらず、2chの音楽にも有効だ。スピーカーカーとヘッドフォンのいちばんの違いは、ヘッドフォンでは音楽が頭の中にこびり付いて鳴ることだが、ドルビーの信号処理を通る



意外と筆者はヘッドフォンを使う。オーディオ誌でディスクを紹介する場合、スピーカーで聴いた後に、全曲ヘッドフォンでもチェックするからだ。

とヘッドフォンなのに音楽が頭のかなかにこびり付かないのだ。効果は、1、2、3の順に強くなり、1、2、3の順で音楽は頭から離れてゆく。しかもボヤけた音ではないのだ。インナー型のヘッドフォンでもちゃんと効果がある。やってくれましたドルビーさん。デジタル技術はヘッドフォンにもどんどん入り込んでいるのだ。これは楽だ。なごめる。筆者は本気で欲しい。しかしドルビー・ラボは技術は売るのが製品は売らない会社なので、現在、オーディオメーカーに売り込み中だ。別項の



ドルビー・ラボ日本支社のホームシアター。おおげさではなく、一般の映画ファンの部屋を想定した構成。地下室で遮音は万全。もう一部屋、「お茶の間サラウンド」のなごめる和室がある。



シリコンオーディオ機のか細い音にも福音だ。オーディオテクニカさんやゼンハイザーさん、早くドルビー・ヘッドフォンを作ってください、お願いだ。

上段がドルビーヘッドフォン回路。入力はデジタルのみ。弁当箱のような大きさだが、今後はどんどん小さくできる。まもなくIC化されれば、ラジカセやヘッドフォンステレオにも簡単に入ってしまう。オーディオテクニカ製の立派なオープンエア型ヘッドフォンで試聴を始めたが、安価なヘッドフォン、インナー型でもその効果は変わりなく発揮される。特にインナー型の音がうるさくなくなるのは大歓迎。

